九話

むがし、あるどごろに、んだすな、今は郵便持ぢってあるすべ。むがしは郵便持ぢっはねがったどもよ。歩いてばり。仙北さ郵便持って行げば、帰って来ないの。何人行って、まだ今日は別の人まだ帰って来ねの。

作治じ男が、それはじぐなし（臆病者）だよ。

「さあ、今日はおれ行ってくる。何おっかねて、おれ行ってくる。何いるもんだて」して、仙北さ行ったわけだよ。して、こんだ戻りにたくさんに川ばだき、たくさんに火たいで、おなごがいだわげだよ。おなごが。そして、「こさあだれ」、それがおかねたばて、まんちあだったわげだよ。して、こんだどして一生これに負げれば、おれかえでしまうど、一生なんたこどしても、これに負げねど。

そして、こんだ、したば

「おれのごど聞ぐが」「何でも聞ぐ」したば「そごの川ばだき、わらしコ殺して、箱さいげ（埋）でらて、持て来てけれ」

持て来て、あんたわじがみがん箱コさ、死んだわらし、ちゃんと入れでらんだよ。それ見では了、人が皆死んでしまってるの。そして一生負げねど思って、がんばって、じぐなしだどもがんばってらわげだよ。

そして、したばさばさぎ（包丁）出して橋切ったげで、釘おごして、そのわらしの手をブツリ切たげで、血ドロドロ出るの。こんだ、かじただよ。ガリツ、ガリツとかじただ。

どして、これ、どがこがさねまねど思って、こんだその腕一本喰、うじ、黙んまて見でだわげだ。まだ、ブッツリ切たげて、まだかじりだしたわげだ。こんけばり厚ぐ。バアーンと取っげして、こんだ自分もガリガリとかじったわげだ。負げられねど思って。

したけ、なぁーに人でね、生菓子なんだよ。して「今まで、このまんち何十人が人来たんだが、したたておめみだんた度胸のえもの来たごどね」て。

「なに、このぐれ腕ぐらいなんでもねェ来だに、おやじのスネかじりだよ」

これでどっとはらったの。